

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

本校の学校教育目標をご存じですか

『ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子』

【めざす学校像】

- (1) 子どもが生き生きと自分の良さを発揮できる学校
- (2) 子ども一人一人が大切にされ、安心して生活できる学校
- (3) 笑顔とありがとうのあふれる楽しい学校
- (4) 保護者、地域の方々に信頼され、協働して教育活動ができる学校
- (5) 教職員の良さを生かし、前向きに教育活動ができる学校

【めざす児童像】

- 〔ひ〕 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- 〔や〕 やさしく 思いやりのある子
- 〔く〕 くじけず 最後までがんばる子
- 〔た〕 たくましく 健康な子

この目標に沿って、日々の教育活動を進めています。毎年二回、学校評価で保護者の皆様のお考えを聞く機会があります。その際には、この学校目標を基に、ぜひ前向きで忌憚ないご意見をお願いします。

林間学校実施

5月25日(火)に5年生による林間学校が実施されました。4月より新型コロナ感染が増えているということで、昨年度に引き続き2日分の野外活動を1日にまとめる中で、リスクを減らし日帰り実施いたしました。5年生全員が参加でき、晴天の中、声を掛け合い力を合わせながら、冒険ハイクや絵図ハイクに汗を流したようです。



正しい答え、優しい答え

「 $10 \div 4$ はいくつですか。」

「2あまり2です」 「2.5です」

どちらも正解です。

あまりのある割り算の学習をしていた時のこと、

「10個のお菓子を4人で分けました。どうなりますか？」

「2個ずつ分けられて2個あまります」

「そうですね、答えは2あまり2ですね」

すると一人の男の子が手を挙げてこう言いました。

「先生、みんなで分けるとあまりは出ません」

その子は続けて、「僕の家では、10個のお菓子をお父さんとお母さんが2個ずつ、僕と妹は余分に一つずつもらえるので3個ずつ、だから一つもあまりは出ません」

あまりのある割り算の答えとしては「2あまり2」が正解です。しかし、実際の生活の中では、この子の家庭のようにあまりが出ない場合もあります。算数の授業としては首をかき上げてしまいますが、この子の答えの中には家庭の温かさが感じられます。

「 $10 \div 4 = 2$ あまり2」「 $1 + 1 = 2$ 」などは『正しい答え』です。ではこの子の答えは・・・「優しい答え」、それとも「温かい答え」でしょうか。

「僕の3個目のお菓子を半分にしてお父さんにあげたので、僕とお父さんは2個半ずつになった」「みんなで1個ずつ食べて、あまった6個を次にとっておいた。だからあまりは6個です」という答えが実際の生活の中ではあってもいいですね。学習の場では「正しい答え」を、でも生活の場では時には「優しい答え」も学んでほしいものです。もちろん学習過程ですから、算数科として正しい計算能力をつけさせていきますが、なんともほほえましいひと時でした。



うそは絶対にいけません！

以前、次のような投稿を目にしたことがありました。

先日、地下鉄の中でこんな光景を見かけました。

地下鉄は結構混んでいました。空いた席はなく、私を含めて何人かの人が立っていました。出入り口のすぐ近くの席には、中学生ぐらいの女の子が座っていました。電車が駅について、何人かの方が乗ってこられました。荷物を持ったお年寄りの方が、その女の子の前のつり革をもった途端、その女の子は立ち上がりました。

お年寄りの方は「大丈夫ですから、どうぞ座っててください」と断られました。女の子は「どうぞ、私は次の駅で降りますから…」と言って、一つ前のドアのほうに歩いていきました。お年寄りの方は、頭を下げて座りました。ところが、電車が次の駅についても、その次の駅についても女の子は降りませんでした。私はその次の駅で降りたので、女の子がどこで降りたのか分かりません。

この女の子はうそを言ったことになりす。でも、この言葉は相手をだましたのではなく思いやった行為です。相手の気持ちを考え、

「次の駅で降りますから…」と、相手の気持ちを楽にしたのです。悪意のうそと善意のうそ、「うそは絶対にいけません」でしょうか。

